最後の夏にかけた想い

―部活動を引退した３年生からのメッセージー

野球部を引退した阿部翼くんからこの夏にかけた思いを寄せられました。

甲子園は無くなったけど、3 年生最後の大会でベスト８という結果を残すことができてよかったです。甲子園が無くなった時はとてもショックでしたが、代替大会があると聞き、甲子園がなくても秋田で優勝しようと気持ちを切り替えて練習をしました。

地区大会を勝ち、全県大会まで勝ち上がることが出来ました。全県１回戦の相手はノースアジア大学明桜高校でした。明桜高校には小学校、中学校とチームメイトだった佐々木湧生くんや、小学校時代に選抜で一緒だった友達もいました。明桜高校は３年連続決勝進出を果たす手強い相手でしたが、気持ちで負けたらその時点で負けだと思って試合に臨みました。９回までしっかりとした気持ちをチーム全員が持ち、戦うことができました。

明桜 振り切った

秋田修英 明桜 四回裏、明桜の福井は二盗成功。カバーは遊撃手佐藤拓＝こまち、山谷勉撮影

ピンチに登板 意地見せた

秋田修英 阿部翼選手（3年）

球音

三回裏、2点をリードされて緊張感の漂うマウンドに、秋田修英の内野手・阿部翼選手（3年）が上がった。「気持ちで負けるなよ」。先発の小西海汪投手（3年）の言葉を頭の中で繰り返しながら、4番打者に向き合った。

明桜には顔見知りも多い。試合前、小中学校が一緒だった佐々木湧生選手（3年）には「カチでこいよ」と言われた。もちろんだ。得意のスライダーを外角低めに集めて先頭の4番打者を打ち取り、この回、三者凡退におさえた。

投手として練習を始めたのは高校2年の夏。コースを鋭く突けるようになりたいと、毎日、チームメートに打席に立ってもらい、実戦を想定して投げ込んだ。「攻守の要に成長し、今大会は3回戦まで打撃も4打数3安打と活躍してきた。

4点を追う八回表、好機で打席に入った。チームは2点を返しなお1死一、二塁。だが三振に倒れた。気持ちは沈んだが、その裏の守備でまたマウンドへ。このまま崩れるわけにはいかない。再び持ち味のスライダーで併殺に打ち取り、無失点で乗り切った。最後に見せた意地だった。

明桜は強かったが、互角に戦ってみせたと思う。「ここまでできると思わなかった」。楽しかった」

（太田原奈都乃）

八回裏、秋田修英の投手阿部は遊撃のピンチを併殺で切り抜け、笑顔を見せる。捕手伊藤

きょうの試合 上が一塁側

▽準々決勝

○こまち 10 時

由利 横手清陵

湯沢翔北 秋田商 （13時30分）

この秋田修英野球部のみんなと野球ができてよかったです。明桜高校は全県優勝したので、東北大会でも勝ってもらいたいと思います。